

使用上の注意

- ・標準配合の通りで使用ください。
※粘度調整のための配合量の加減、水の添加はしないでください。
- ・一度に3材全てを投入し、攪拌しないでください。
- ・調合した材料は1回ごとに使いきり、追加調合は避けてください。
- ・誤って眼に入った場合は、大量の流水で洗浄し、直ちに医師の診察を受けてください。
- ・皮膚に付着した場合は清水で洗い流し、刺激が残った場合は直ちに医師の診察を受けてください。
- ・作業終了時には手、顔を洗い、うがいをしてください。
- ・主剤・硬化剤及び粉材、並びにこれらを含む廃材等を廃棄する時は産業廃棄物として処理してください。

保管上の注意

○主剤、硬化剤

- ・直射日光を避け、5～40℃の風通しの良い屋内で保管してください。
- ・保管は密封状態で行い、開封後は全量使用してください。

○粉材

- ・雨露を避け、風通しの良い、湿気の少ない屋内で保管してください。
- ・水濡れの危険のある床面では、直置きを避け、パレットなど架台を用いてください。

製品荷姿



品名	NET	形態
スカイレジンWE 主剤	3kg	液体用プラスチック容器
スカイレジンWE 硬化剤	3kg	液体用プラスチック容器
スカイレジンWE 粉材	18kg	プラスチックフィルムを積層したプラスチッククロス袋入

Fun to Share

独創の技術が明日を拓く
大日化成株式会社
<https://www.dainichikasei.co.jp/>

本社 〒571-0030 大阪府門真市末広町8-13 TEL. 06-6909-6755 (代) FAX. 06-6909-6702
東京支店 〒105-0012 東京都港区芝大門1-4-14 TEL. 03-3436-3801 (代) FAX. 03-3436-3803
岡山工場 〒709-4312 岡山県勝田郡勝央町黒土115-1 TEL. 0868-38-5151 (代) FAX. 0868-38-3745

代理店



本リーフレット記載の製品写真は、印刷物のため実際の色とは多少異なっています。
本カタログは、一部植物油インキを使用しています。

KENE-582D (20.10)

DAINICHICHEMICAL
CO.,LTD.

スカイレジン WE

スカイレジンWEは水系エポキシ樹脂をベースとする
ローラー施工タイプのエポキシポリマーセメント系下地調整材です。

特長

- ① ローラーでの薄塗り用途から鏝での厚塗り用途まで施工が可能です。
※珪砂(6号)を添加することにより部分補修材(50mm厚迄)としても利用可能です。
- ② 耐溶剤性に優れているため、ウレタン、FRP等の溶剤型塗布材料の下地調整材に最適です。
- ③ 浸透性の高いエポキシ樹脂エマルジョンを配合しているため、付着力に優れています。
- ④ 乾湿両面に対する施工が可能で、各種下地への密着性に優れます。
- ⑤ 強度発現が早く、乾燥を確認後、次工程に移ることができます。

用途

- ① コンクリート、モルタルやその他各種既存下地(床材、FRP等)の下地調整。
- ② ウレタン防水材、FRP防水材、その他防水材及び一般の溶剤、無溶剤塗料の下地調整。
- ③ 部分補修用途(50mm厚迄) ※別途、珪砂(6号)を添加。

各種下地との接着性

結果は、各下地にスカイレジンWEを2.0kg/m²塗布し、※JIS A 6916耐久性試験を実施した時の値です。

※JIS A 6916耐久性試験:標準養生2週間後、水浸積16時間→-20℃4時間→50℃4時間を1サイクルとし、これを10サイクル行う。

下地	モルタル	コンクリート	ウレタン床材	ポリエステル系FRP 防水材	エポキシ ライニング
付着強さ (N/mm ²)	3.0	3.0	2.5	2.1	2.3
破壊状態	基材破壊	基材破壊	WEの破壊	WEの破壊	WEの破壊

※表面目粗しあり

下地	ウレタン防水材	ALC	ケイカル板	大理石	金属下地
付着強さ (N/mm ²)	0.8	0.3	0.5	0.8	衝撃で剥離を 起こす危険が あるため使用 に不向きです。
破壊状態	基材破壊	基材破壊	基材破壊	基材破壊	



独創の技術が明日を拓く
大日化成株式会社

施工要領

- ・下地の汚れ・油分・脆弱部分をブラシ、サンダー、洗剤等で取り除き、下地を清掃してください。
- ・ペイント用容器等で、主剤と硬化剤を攪拌機で攪拌し、粉材を投入します。
(粉材は攪拌状態で投入してください)
- ・粉材投入後、だまが無くなるまで十分攪拌してください。
- ・攪拌後、ローラー、刷毛により塗布してください。
- ・床面への塗布量は0.7～2.0kg/m²(約0.3～1.0mm厚)です。
- ・2回に分けて塗布すると、よりピンホールの発生を抑えることができます。

(注意事項)

※ 粘度調整のために粉材等の配合量の加減はしないでください。

※ 一度に3材全てを投入し攪拌しないでください。

※ 水は添加しないでください。

※ 吸水の激しい下地では、主剤+硬化剤の混和液(1:1)をプライマーとして塗布すると接着が良くなります。

※ 環境条件、下地の水分、塗り厚により乾燥時間は異なります。
(塗り厚が厚くなると乾燥時間が長くなります。)

材料積算

標準塗布量	面積 × 厚み × 比重 ÷ 荷姿 = 数量
スカイレジンWE	()m ² × ()mm × 2.0 ÷ 24 = ()セット

使用量の目安: 0.5mm厚の場合、24kgセットで約24m²施工できます。

その他用途

■部分補修

- ・2.0～50mmまでの厚付けをする際には、1セット(24kg)に対し18kg(粉材と同量)を目安に6号珪砂を添加し、金鋺及びゴム鋺により塗布してください。

※厚塗り施工…欠損部や荒れた下地に金鋺などで摺り込みます。内部の空気を押し出すために振動を与えてください(叩くなど)。

※主剤+硬化剤の混和液(1:1)をプライマーとして塗布してください。

厚塗り用	面積 × 厚み × 比重 ÷ 全体量 × 配合比 ÷ 荷姿 = 数量
スカイレジンWE	()m ² × ()mm × 2.1 ÷ 42 × 24 ÷ 24 = ()セット
6号珪砂	()m ² × ()mm × 2.1 ÷ 42 × 18 = ()kg

使用量の目安: 10mm厚の場合、WE 1セット(24kg)と珪砂18kgで約2m²施工できます。
25mm厚の場合、WE 1セット(24kg)と珪砂18kgで約0.8m²施工できます。
50mm厚の場合、WE 1セット(24kg)と珪砂18kgで約0.4m²施工できます。

塗布間隔

5°C厚塗り(10mm)	48時間
23°C厚塗り(10mm)	24時間

各厚みでのPC板に対する付着強さ

厚み(mm)	付着強さ(N/mm ²)	破壊状態
10	1.8	材料破壊
25	1.8	材料破壊
50	1.8	材料破壊

一般性状

項目	粉材	主剤	硬化剤
NET	18 kg	3 kg	3 kg
外観	灰色粉末	白色乳化液	淡黄色乳化液
主成分	セメント、骨材	エポキシ樹脂	変成脂肪族ポリアミン
粘度各材料 (mPa・s)混合後	—	約3.0	約7.0
樹脂固形分(%)	—	約18.5	約13.9
可使時間	約1時間(23°C)		
混合比	粉材:主剤:硬化剤=6:1:1(重量比)		
単位容積質量	約2.0 kg/L		
塗布間隔	5°C	薄塗り(約0.3mm)8時間	
		標準(約1.0mm)16時間	
	23°C	薄塗り(約0.3mm)6時間	
		標準(約1.0mm)8時間	
塗布量	0.7～2.0 kg/m ² (約0.3～1.0mm)		

■透水性

試験法JIS A 6909透水試験B法にて塗膜の透水性を確認した。

液剤塗布量(kg/m ²)	透水量(mL)	参考
—	5.0以上	JIS A 6909透水試験B法

■透水抑止性

主剤・硬化剤を1:1(重量比)で混合した液剤を塗布することにより透水抑止性が向上した。

液剤塗布量(kg/m ²)	透水量(mL)	参考
0.1	2.8	JIS A 6909透水試験B法
0.2	0.7	

※スカイレジンWEの塗布量は2.0kg/m²とした。

※詳細は弊社営業部までお問い合わせください。

ウレタン防水材の接着性

300×300×30mmのモルタル板にスカイレジンWEを2.0kg/m²施工し、8時間後にウレタンプライマーを半面に0.2kg/m²塗布し、残る半面は無塗布とする。更に30分後ウレタン防水材を2mm厚で全面に塗布し、翌日と7日後にバネ秤を用いて90°剥離強さを測定した。

	ウレタン プライマー	ウレタン施工翌日		ウレタン施工7日後	
		剥離強さ (kgf/25mm)	破壊状態	剥離強さ (kgf/25mm)	破壊状態
スカイレジンWE	あり	10.0以上	ウレタン防水材の破壊	10.0以上	ウレタン防水材の破壊
	なし	4.5	スカイレジンWEと ウレタン防水材の 界面剥離	5.5	スカイレジンWEと ウレタン防水材の 界面剥離